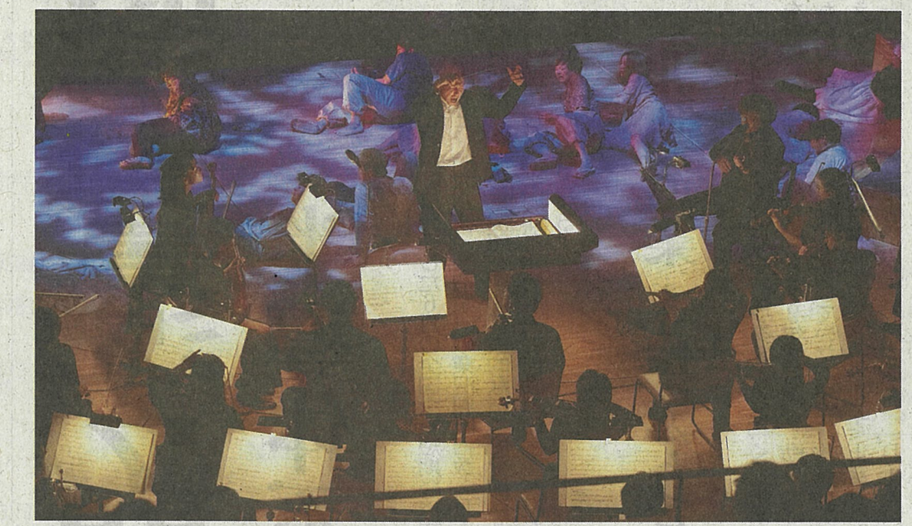
# 集大成のタクト その時が来た

## 鬼才の軌跡 ―上―

### 井上道義引退

指揮者・井上道義(76)が来年末、楽壇を去る。生涯現役でタクトを振る指揮者が少なくない中、自らブログで異例の「引退宣言」をして驚かせた。常に異彩を放ち続け、関西の楽壇でも圧倒的な存在感を見せたマエストロ。その軌跡をたどる。



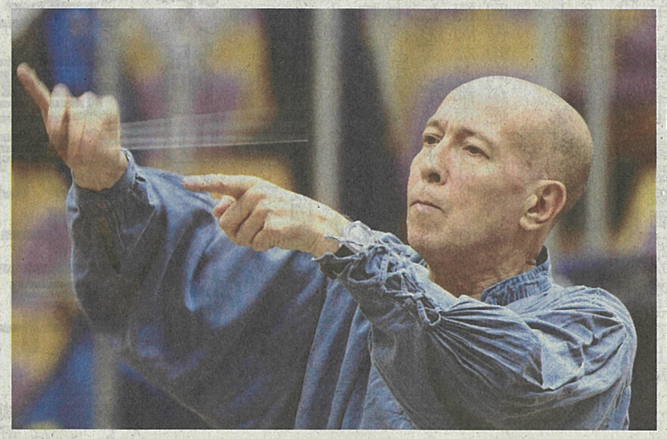
「降福からの道」を指揮する井上（中央）。演奏は新日本フィルハーモニー交響楽団（1月23日、東京・サントリーホールで）©K.Miura

「やりきった」。今年1月、東京・サントリーホール。脚本、作曲、演出、振り付け、指揮と、全てを手がけた約2時間のミュージカルオペラ「A Way from Surrender～降福からの道～」の演奏を終え、10分近く鳴りやまない拍手の中、達成感に浸っていた。

自らの人生を題材にした家族の物語。構想から10年以上を要した。「作曲はド素人」と言う井上。それでも作りたいと願ったきっかけは、自身の出自にある。

1946年、東京都生まれ。彫りの深い顔立ち、周囲とは合わない感覚。「俺って日本人じゃないんじゃない？」。そう思っていた。

真実を知ったのは40歳代。父が亡くなった後だった。第2次世界大戦中、フィリピンに移住した両親は、米軍や現地のレジスタンスに追われ、命からがら戦後の日本に戻った。そして、母は駐留米兵と恋に落ち、生まれたのが自分。父と思っていた人と、血のつながりはなかったのだ。



大阪フィルハーモニー交響楽団とのリハーサルに臨む井上（2016年6月撮影）

「いったい家族って、何。あの戦争は何だったのか」。積年の鬱屈した思いが、自伝的作品の創作へと向かわせた。「これができたら辞めていいなって、ずっと思いながら書いていた。実際にその時が来た」

♪　♪

幼い頃からピアノやバレエを習い、指揮者を志したのは14歳の時。「自分がなぜ生きているか、何のために生きるかを考える環境として、指揮者になることが一番いいと思った」。早熟な少年だった。

桐朋学園大で斎藤秀雄に師事。71年にイタリアの指揮者コンクールで優勝し、国内外から注目された。新日本フィルハーモニー交響楽団音楽監督（83～88年）、京都市交響楽団音楽監督（90～98年）、大阪フィルハーモニー交響楽団首席指揮者（2014～17年）と主要ポストを歴任した。

大フィルとの付き合いは長い。1980年の定期演奏会で＝大フィル提供

1999～2000年には新日本フィルとマーラーの交響曲全曲演奏会に取り組み、高い評価を得た。「異端児の音楽を通じて、自分の音楽を表現できた」と振り返る。

そして、何といってもソ連の作曲家、ショスタコービッチだ。「人間の善意への希望を（周囲から）歪曲されることなく書き続けた真の芸術家」と敬愛。07年、日露五つのオーケストラで交響曲全15曲の演奏会を成し遂げた。複雑怪奇な作曲家に自身を重ね、「俺自身がショスタコービッチ」と公言。井上の代名詞になった。

実は、企画した当時、オケやマネジャーらから「やめてくださいよ。長いし、客は入らないし、暗い」「ソビエトの音楽。何であんなもん、やるんですか」と激しく反対されたという。

周囲を説得し、時には自分で赤字の穴埋めもした。結果、熱演が話題になり、CD化もされた。「考えを改めさせるのは快感だったよ」。ちゃめっ気たっぷりに語る。

♪　♪

オペラ「フィガロの結婚」の舞台を日本に置き換えてみたり、バーンスタインの大作「ミサ」を23年ぶりに再演してみたり。全力で駆け抜けた半世紀を「僕は開拓することが非常に好きだったと思う。人がやってないことをやるのがね」。その集大成が「降福からの道」だった。

14年に咽頭がんが判明するも半年後に復帰。精力的に活動してきたが、最近は衰えを実感している。「降福からの道」を終えた翌朝、腹痛で緊急入院。先月の兵庫での公演も、結石性腎盂腎炎で急きょ降板した。

「自分が思うような態度で指揮や音楽ができないとか、舞台に立つ気がなくなったら、指揮者は辞めるべきじゃないかと思う」と井上。「他人がどう言おうと、自分のモチベーション（動機付け）が、『お前、十分やったんじゃないのか？』とささやくわけです。もうそれにあらがえない」

＊次回は10日の予定です。

## 「家族って、何？」自伝的オペラ創作に10年

### 井上道義の歩み

| | |
|---|---|
| 1946年 | 東京都に生まれる |
| 71年 | ミラノ・スカラ座主催の「グイド・カンテルリ指揮者コンクール」優勝 |
| 76年 | 日本フィルハーモニー交響楽団の定期演奏会で日本デビュー |
| 77年 | ニュージーランド国立交響楽団の首席客演指揮者に（～82年） |
| 83年 | 新日本フィルハーモニー交響楽団の音楽監督就任（～88年） |
| 90年 | 京都市交響楽団の音楽監督、常任指揮者に（～98年） |
| 99年 | 新日本フィルハーモニー交響楽団とマーラー交響曲全曲演奏会（～00年） |
| 2007年 | オーケストラ・アンサンブル金沢の音楽監督に就任（～18年） |
| 07年 | 「日露友好ショスタコーヴィチ交響曲全曲演奏プロジェクト」実施 |
| 14年 | 大阪フィルハーモニー交響楽団の首席指揮者に（～17年） |
| 21年11月 | ブログで引退を宣言 |
| 23年3月 | サントリー音楽賞に決定 |

ひと

「戦前」の正体
愛国と神話の日本近現代史

NHKドラマ「やさしい猫」　主演 優香さん × 原作 中島京子さん